領　　域	専門分野（老年看護学）	開講時期	２年前期
科 目 名 （単元名）	老年看護方法論Ⅰ （高齢者の日常生活援助）	単 位 数 （時間数）	１単位（30 時間）
講　　師 （所属・職位等・実務経験）	①　田尻朝恵（別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 15 年） ②　幸　邦子（別府医療センター・摂食嚥下障害認定看護師・看護師 37 年）		

＜科目目標＞

老年期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、高齢者の生活を支える看護について理解する。

＜事前課題＞

加齢に伴う身体的・精神的・社会的側面の変化についてレポートにまとめ、第１回講義前に提出する。

＜内容＞

回	内容	授業方法	担当講師
１・２	Ⅰ．高齢者の生活を支える看護 １．高齢者とのコミュニケーションとかかわり方 1）コミュニケーションの基本 2）高齢者にみられるコミュニケーション上の特徴 (1) 加齢変化　　(2) 疾患、障がいの影響 3）高齢者とのコミュニケーションの原則 4）コミュニケーション能力のアセスメント 5）高齢者におこりやすいコミュニケーション障がいとアセスメント (1) 老人性（加齢性）難聴　(2) 失語症　(3) 構音障がい 6）高齢者の状態・状況に応じたコミュニケーションの実際と方法 (1) 聴覚障がいのある高齢者とのコミュニケーション ①高齢者の聴覚障がいの病態と要因 ②聴覚障がいの程度と生活機能への影響 ③補聴器を使用する高齢者とその家族への援助	講義	①
３～５	２．活動 (1) 基本動作と環境のアセスメント ①基本動作　②基本動作・姿勢を支える環境 ③日常生活活動の評価 (2)転倒のアセスメントと看護 ①アセスメント　②転倒した高齢者への看護 (3)廃用症候群のアセスメントと看護 ①老年症候群とは ②フレイルと老年症候群の関係 ③フレイルの予防と看護 ④廃用症候群の早期発見・予防に向けた看護	講義	①
６	３．休息 (1)高齢者の生活リズム (2)高齢者に特徴的な変調 ①睡眠と覚醒の変化　②生活行動の変化とその影響 (3)生活リズムとアセスメント (1)睡眠の評 (4)生活リズムの変調に影響する要因のアセスメント (5)生活リズムを整える看護	講義	①

	①昼間のケア ②夜間のケア		
7	4．清潔・衣生活 1）高齢者の清潔援助の意義 2）高齢者に生じやすい清潔に関する健康課題 (1) 皮膚障害　(2) 清潔のセルフケア能力の変化 3）清潔のアセスメント	講義	①
8・9	5．排泄 1）高齢者の排泄ケアの基本 (1) 高齢者の尊厳をまもる排泄ケア (2) 排泄リズムの把握と生活調整 2）排尿障害のアセスメントとケア (1) 排尿のアセスメント (2) 排尿障がいの特徴とケア ①尿失禁の病態と要因　②尿失禁のケア 3）排便障がいのアセスメントとケア (1) 排便のアセスメント (2) 排便障がいの特徴とケア ①便秘・下痢の病態と要因②便秘・下痢のケア 4)おむつを使用している高齢者への援助	講義	①
10・11	6．食事 (1) 高齢者における食生活の意義 (2) 加齢に伴う摂食嚥下機能の変化 (3) 食生活のアセスメント ①食事環境　②摂食嚥下能力　③栄養状態 (4) 食生活の支援 ①食べることへの意欲の維持・向上　②食事形態の工夫 ③食器や自助具の工夫　④口腔ケア (5) 危険を予測した観察と看護 ①誤嚥性肺炎　②窒息　③主体性の低下 ④スキントラブル　⑤脱水　⑥低栄養 (6) 多職種協働による食支援 ①栄養サポートチーム（NST） (7) 咀嚼嚥下機能に障がいをもつ高齢者の看護	講義	②
１２	7．高齢者のセクシュアリティ 1）高齢者のセクシュアリティとは 2）セクシュアリティのアセスメントと看護 8．高齢者の社会参加 1）高齢化の現状と目ざす社会の方向性 2）地域における高齢者の社会参加	講義	①
【事前課題】 日常生活援助機能、感覚機能が低下している対象の事例に対し、必要な清潔援助を立案する。			
13・14	Ⅱ．高齢者の生活を支える看護の実際 1）清潔援助の実際（皮膚・口腔・目・耳の清潔） 2）排泄援助の実際（オムツ交換、陰部洗浄）	演習	①
15	Ⅲ．リスクマネジメント 1)高齢者と医療安全 (1)高齢者特有のリスク要因 (2)高齢者がみまわれやすい医療事故と対応の実際 2)高齢者と災害 (1)災害における高齢者の脆弱性	講義	①

	(2)災害フェーズと高齢者支援 (3)看護職に求められる役割		

授業の進め方

加齢が及ぼす症状や生活行動への影響に着目し、その要因を理解し考える。生活行動では日常生活行動だけでなく住環境や人的環境にも着目し、高齢者が社会で生活するための環境を考える。このように、高齢者の生活行動から援助を考え、高齢者のQOLとは何かを理解する。また、社会との関わりで必要となるコミュニケーションの阻害要因と看護を理解し、高齢者のコミュニケーションを理解する。

テキスト・参考文献

１．系統看護学講座　専門分野　老年看護学（医学書院）：①②
２．看護　形態機能学　第４版　生活行動からみるからだ（日本看護協会出版会）：①
３．カラー写真で学ぶ高齢者の看護技術（医歯薬出版株式会社）：①
４．生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図：①

評価方法

筆記試験、レポート、演習における参加状況を総合的に評価する。

領　　域	専門分野　（老年看護学）	開講時期	2 年前期
科 目 名 （単元名）	老年看護方法論Ⅱ	単 位 数 （時間数）	1 単位（30 時間）
講　　師 （所属・職位等・実務経験）	①　野中智恵（別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 18 年） ②　三ツ股巧貴（別府医療センター・看護師 6 年） ③　大道真理（別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 18 年） ④　森　優奈（西別府病院・看護師 7 年） ⑤　泉　雄大（別府医療センター・看護師 9 年） ⑥　雨宮　洋子　（社会福祉法人泰生会・理事長・36 年） ⑦　中村香那（別府医療センター・看護師 8 年） ⑧　山田祐子（別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 26 年）		

＜科目目標＞

老年期にある対象の健康上の問題、健康レベルに応じた具体的な看護の方法について理解する

＜内容＞

回	授業内容	授業方法	担当講師
1～3	1. 高齢者に特有な症状と看護 1)掻痒感 (1)掻痒のある高齢者に多い特徴 (2)看護の要点 2)脱水 (1)高齢者の脱水の特徴 (2)高齢者の脱水のアセスメント (3)看護の要点 3)褥瘡 (1)症状の成り立ちと臨床的特徴 (2)アセスメント (3)看護の要点 4)感染症 (1)高齢者の感染症の背景と特徴 (2)感染症のリスクアセスメント (3)感染症ケアの実際 5)うつ (1)高齢者のうつの特徴 (2)アセスメント (3)看護の要点	講義	①
4・5	2.　経過に応じた高齢者の看護 1)急性期の高齢者の看護 (1)急性期における高齢者の特徴 (2)急性期における高齢者の看護 2)回復期の高齢者の看護 (1)回復期の高齢者の特徴 (2)回復期における高齢者の看護 3)慢性期の高齢者の看護 (1)慢性期の高齢者の特徴 (2)慢性期における高齢者の看護 (3)多様な場で生活する高齢者を支える看護 4)終末期にある高齢者の看護 (1)終末期における高齢者の特徴 (2)終末期における高齢者の看護		⑧

6	3. 循環機能障害のある高齢者を支える看護 1)循環機能障害のある高齢者の看護 (1)病態生理と症状 ①高齢者の二大病因　a.虚血性心疾患　b.高血圧症 (2)診断　(3)治療　①薬物療法　②生活指導 (4)看護　①心不全症状の緩和②慢性心不全の急性増悪の予防	講義	②
7･8	4.呼吸機能障害のある高齢者の看護 1)病態生理と症状 (1)高齢者の罹患率の高さ (2)喫煙や加齢に伴う合併症 2)診断と治療 (1)非薬物療法 (2)増悪期の治療 3)看護の要点 (1)高齢者の生命予後を改善する禁煙　(2)重症化の予防	講義	③
9	5.脳神経系に障害のある高齢者の看護 1)病態生理と症状(パーキンソン病) (1)加齢と共に発症率が増加 (2)特徴的な4大症状 2)診断と治療 (1)薬物療法中心の治療 (2)運動療法の継続 3)看護の要点 (1)服薬管理 (2)日内変動や経過に合わせた生活援助 (3)転倒･外傷の予防 (4)食べやすさの改善	講義	④
10･11	7.運動機能障害のある高齢者の看護 (1)病態生理と症状 (2)診断と治療 ①薬物療法中心の治療(骨粗鬆症) ②保存療法(腰椎圧迫骨折) ③手術療法(骨接合術、人工骨頭置換術、人工膝関節置換術) ④食事療法と運動療法の継続 (3)看護の要点 ①服薬管理 (老年期以降の骨量増加の限界) ②人工関節置換術後の生活指導 ③脆弱性骨折の予防 ④予期せぬ入院への対応	講義	⑤
12～14	8. 認知症高齢者の看護 1) 認知症とは (1) 認知症の定義　(2) 認知症高齢者の理解 (3) 認知症の疫学　(4) 認知症の分類 2) 認知症の症状 (1) 認知機能障害（中核症状）(2) 認知症の行動・心理症状 3) 認知症の治療と予防 4) 認知機能および生活機能の評価 (1) 認知機能の評価　(2) 生活機能の評価 (3) 評価尺度の活用方法 5) 認知症高齢者の看護 (1)環境と環境調整　(2)安全面への対処　(3)対応の実際	講義	⑥

	(4)認知症高齢者とのコミュニケーション方法 (5)認知症高齢者の環境調整 (6)急性期医療における認知症高齢者の看護 (7)認知症高齢者と家族へのサポートシステム		
15	9. 感覚機能に障害のある高齢者の看護 (1)感覚機能障害の病態生理と症状 ①視覚機能障害の病態生理と症状 ②聴覚機能障害の病態生理と症状 (2)診断と治療 ①光線力学的療法、抗血管新生薬療法　②保存療法 ③手術療法　④薬物療法 (3)看護の要点 ①服薬管理・点眼薬・点耳薬指導管理 ②日内変動や経過に合わせた生活援助	講義	⑦

授業の進め方

老年期にある対象の身体的・精神的・社会的側面の特性を踏ふまえ、健康上の問題、健康レベルに応じた具体的な看護について教授する。特に加齢や疾病が生活に及ぼす影響をとらえ、高齢者とその家族の生活の質を考えた援助方法や自立支援を教授する。これらの学習を通して、超高齢社会の中で多様な背景を持つ高齢者とその家族を尊重した援助が理解できるよう教授する。

テキスト

1. 系統看護学講座　専門分野　老年看護学(医学書院)①
2. 系統看護学講座　専門分野　老年看護　病態・疾患論(医学書院)①②③④⑤⑥⑦
3. 系統看護学講座　専門分野　成人看護学［3］　循環器(医学書院)②
4. 系統看護学講座　専門分野　成人看護学［2］　呼吸器(医学書院)③
5. 系統看護学講座　専門分野　成人看護学［7］　脳・神経(医学書院)④
6. 系統看護学講座　専門分野　成人看護学［10］　運動器(医学書院)⑤
7. 生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図(医学書院)①

評価方法

筆記試験、レポート評価

領　　域	専門分野　（老年看護学）	開講時期	2 年前期
科 目 名 （単元名）	老年看護方法論Ⅲ	単 位 数 （時間数）	1 単位（15 時間）
講　　師 （所属・職位等・実務経験）	田尻朝恵（別府医療センター附属大分中央看護学校 専任教員・看護師 16 年）		

＜科目目標＞

急性期、回復期、慢性期、終末期の各期にある対象に発達段階、健康の段階を考慮した必要な看護展開を理解することができる。

＜内容＞

回	授業内容	授業方法
1・2	1. 急性期の対象の患者　（事例:大腿部頸部骨折） 1)発達段階、健康の段階を考慮した看護の目的 2)看護の役割 3)問題の抽出 4)対象に必要な看護 (1)緊急手術への対応　(2)術後合併症、二次的障害の早期発見・予防 (3) 再転倒予防への援助	講義 演習
3・4	2. 回復期の対象の看護（事例:大腿部頸部骨折） 1)退院後の療養生活を想定した指導 2)社会資源の活用 3)地域を含めた多職種連携 4)患者・家族への意思決定支援 5)家族支援の看護の展開	講義 演習
5.6	3. 慢性期の対象の看護　（事例:慢性心不全） 1)発達段階、健康の段階を考慮した看護の目的 2)看護の役割 3)問題の抽出 4)対象に必要な看護 (1)身体機能低下、生活環境の変化に伴うセルフケア能力のアセスメントと看護 (2)多職種による支援、社会資源の活用	講義 演習
7・8	4. 終末期の対象の看護（事例：肺がん） 1)発達段階、健康の段階を考慮した看護の目的 2)看護の役割 3)問題の抽出 4)対象に必要な看護 (1)苦痛の緩和　(2)QOL を高める看護 (3)家族への支援　(4)多職種による終末期支援	講義 演習

授業の進め方

講義で事例を示しながら、講義を進める。

テキスト

1．　系統看護学講座　専門分野　老年看護学（医学書院）
2．系統看護学講座　専門分野　老年看護　病態・疾患論（医学書院）
3．生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図（医学書院）

評価方法　　1．レポート